

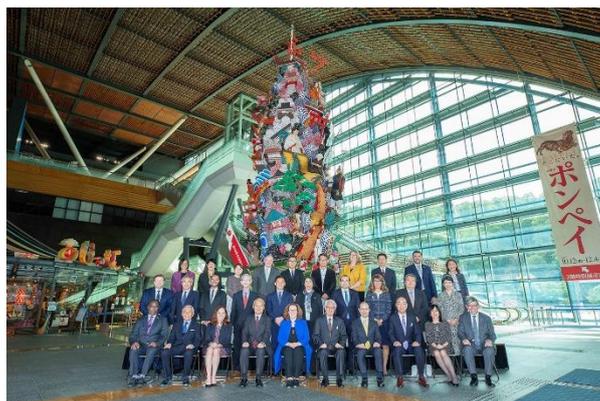
カルコン・シンポジウム2022年報告

日時：2022年10月23～24日

場所：福岡（ニューオータニ博多）及び太宰府（九州国立博物館）

●概要

カルコン（日米文化教育交流会議）では2年に一度、日米両国の委員全員が参集し「合同会議」を、その翌年には「シンポジウム」を日本とアメリカで交代に主催しています。2021年10月に新型コロナウイルスの影響により、日本側主催で「合同会議」をハイブリッド方式で行い、米側委員はオンライン参加をしました。その際にまとめられた「共同声明」は、同年11月に岸田総理に報告されました。[合同会議・シンポジウム \(jpf.go.jp\)](https://www.jpf.go.jp)



この「共同声明」で言及された課題の一つをテーマとして、日本側が今年のカルコン・シンポジウム「日米相互理解の深化のために」を企画しました。本年は10月11日以降、日本入国時の米国人の査証取得が免除となったことを受け、米側委員も来日して九州において対面で開催されることとなりました。最後に日米の委員たちが顔を合わせたのは2019年のことですから、3年ぶりの対面となりました。また日米双方の委員が、この間に新旧委員交代もあったため、初対面のメンバーも多く含まれ、貴重な機会となりました。

●日程

- (1) 10月23日（日）於・福岡
 - アドホック委員会最終報告
 - 麻生顧問邸での懇談
- (2) 10月24日（月）於・太宰府
 - カルコン・シンポジウム「日米相互理解の深化のために」
 - 日米野球150周年記念ランチ・セッション「太平洋を越えたフィールド・オブ・ドリームス」
 - 九州国立博物館常設展視察
 - 太宰府天満宮宮司による講話
- (3) 10月26日（水）於・東京 フォローアップ関連行事

●内容

(1) アドホック委員会最終報告会

2021年10月に結成された日米委員から構成されるアドホック委員会は、これまで3回にわたる協議を経て（第1回はオンライン、第2回はハワイでハイブリッド、第3回は沖縄でハイブリッド）、今回の最終報告会において以下の2点について合意しました。

①新たにカルコンでは、「デジタル化時代の情報共有と相互理解の深化」、「サブナショナル外交と地域間交流の促進」、の2つのテーマを協議する分科会（ワーキング・グループ）を立ちあげる。

②二つのワーキング・グループはカルコン委員と外部有識者から構成され、来年米国で開催されるカルコン合同会議の場でその成果を発表する。



(2) 麻生顧問邸における懇談会

2006年から委員を務め2012年からは顧問として日本側カルコンの中核を担ってこられている麻生泰氏の自宅（飯塚市）において、カルコン・シンポジウム2022参加者を招いての懇談夕食会が開催されました。自宅の芝生庭上に、BBQテントと参加者用のテーブル・椅子が配置され、冒頭には米側委員長シーラ・スミス博士から麻生顧問への感謝表明・贈呈があり、その後日本側加藤良三委員長夫妻より、麻生夫妻に花束贈呈がありました。参加者には在福岡米国総領事館首席領事チュカ・アシーケ氏、日本国際問題研究所理事長佐々江賢一郎氏も含まれました。



（３）カルコン・シンポジウム「日米相互理解の深化のために」

冒頭、太宰府市長の楠田大蔵氏、チュカ・アシーケ米国駐福岡首席領事からそれぞれ歓迎の挨拶をいただきました。楠田市長はかつて米務省の IVLP プログラムで 3 週間の米国訪問経験もあり、カルコンの活動への興味を示されました。

シンポジウムはスミス米側委員長の司会のもと、久保文明日本側副委員長が登壇者の紹介と最後のラップアップを担当。登壇者にウィリアム・ツツイ委員、ジョリヨン・トーマス委員、高橋裕子委員のカルコン委員の他、外部有識者として、上智大学の前嶋和弘教授、スタンフォード大学の筒井清輝教授を迎えて、米国における日本研究、日本における米国研究の現状と課題について、研究機関におけるファンディング、時代の変遷と学問領域の変化、社会構造や政治課題の変化が与える学問への影響、学生の関心事項や教員側の変化や世代交代問題、カルコン等公的機関はどのような支援ができるか等、それぞれの立場からの発言後、質疑応答がありました。会場からは、九州大学の学生 2 名（米国人留学生を含む）から質問も出され、その後の登壇者・委員の交流も実現しました。



（４）日米野球 150 年記念ランチ・セッション「太平洋を越えたフィールド・オブ・ドリームス」

加藤日本側委員長、島谷弘幸委員が、王貞治福岡ソフトバンク・ホークス会長を迎えての炉辺談話は、清水さゆりライス大学教授による司会で和やかに進行しました。

内容は日本に野球が伝わって 150 周年、米国の球団ではプレイしたことのない王氏がなぜ米国で選手・監督として尊敬を集めているか、米国人野球人との交流や、次世代育成のために立ち上げた日米共同の財団の活動について語られました。会場からの質問にも一つ一つ丁寧に応答する王氏に対し、セッション終了後はスタンディング・オベーションとなりました。



（５）九州国立博物館常設展視察

学芸員による小グループに分かれての視察のほか、スマホで多言語による音声ガイド「ナビレンス」を使用しての視察実施が行われました。

（６）太宰府天満宮宮司による講話

社務所にて第 39 代目西高辻信良最高顧問、第 40 代目西高辻信宏宮司による講話・質



疑応答後に昇殿し、日米の絆の深化と世界平和への願いを込めて首を垂れました。米側委員には、日本の宗教専門家も含まれていたほか、宮司の世代交代についての質疑応答は含蓄深いものとなりました。1300年に亘る伝統を守っていくためには、世間・世界の変化に合わせて自分が変わることによってこそ、伝統を守ることができるのだという教

えには、日米両国の参加者も感銘を受けました。

(7) 東京での関連行事

① ラーム・エマニュエル大使を迎えての朝食会

26日朝、カルコン米側事務局主催により、エマニュエル駐日米国大使を迎えての朝食会を実施しました。スミス委員長から福岡での会議概要について報告後、参加した日米委員との意見交換が進められました。

(エマニュエル大使による Twitter より)



② 林芳正外務大臣表敬訪問

26日午後、米側委員と日本側委員長および事務局長とで外務省にて林外務大臣を表敬訪問しました。福岡での会議概要報告と今後たちあげられる2つのワーキング・グループのテーマについての説明が、スミス委員長から報告ありました。

(外務省報道発表あり)

[日米文化教育交流会議（カルコン）日米委員長及び米側カルコン委員による林外務大臣表敬 | 外務省 \(mofa.go.jp\)](#)



③ 東洋文庫ミュージアム視察

26日夕刻、米側委員一行と日本側委員長および事務局長は、日本側委員の杉浦康之氏が専務理事を務める東洋文庫（The Oriental Library Museum）を視察しました。約170年前のペリー提督来航関連の稀覯本や、太宰府天満宮訪問ゆかりの菅原道真公関連史料などを研究員からの解説を聞きながら視察しました。



以上